

厚生労働省のご担当の皆様へ

本日は育時連のためにお時間を割いていただき、お忙しいところを本当にありがとうございます。

それにも関わらず、私自身はあいにく本日は仕事上の都合でお目にかかれず残念です。

初めに自己紹介をさせていただきます。森口と申します。37才の会社員で、新聞記者の38才の夫と3才の娘がおります。

私が申し上げたいことは、

「長時間労働やサービス残業をなくし、健康で文化的でまともな家庭生活をあたりまえに保証される社会の実現を政府として取り組んで頂きたい」

という点です。

以下、まとまりのない文章ですが、実体験をいくつか紹介させて下さい。

1) 安すぎる日本の残業代が長時間労働の温床に

勤務先の会社が経営する、タイの子会社の工場長として赴任していた人が、昨年帰国したときのことで。

「今うちの会社で残業すると、時間外賃金ってどのくらい割り増しになるの？」

「5時半から10時までが30%割り増し、10時以降は35%、休日は37%アップですね」

「タイはね、平日の時間外手当が基本給に100%プラス、休日出勤の場合は手当が基本給プラス200%なんだよ。さらに休日出勤で残業になると基本給プラス300%になっちゃう。だからマネージャーにとっては、いかに残業させずに生産計画を達成するか、必死で知恵を振り絞るよね」

2) 官僚と組合活動のせいで家に帰らないウチのダンナについて

夫は中央官庁の記者会に所属する記者ですが、以前は通常の帰宅時間が早くて10時、遅いと何日も自宅に帰って来ませんでした。

だいたい官庁や国会で行われる記者会見が、夜9時とか、夜中の2時とかに開かれているのに、定時で帰宅できるわけないですよ。

役所が子育て期の父親を家に帰宅させないから、それにつきあう報道関係や政党関係のスタッフも子供の待つ家に帰れません。

昨年からは彼は記者職のほかに、労組役員も引き受けてしまったために、午前3時が通常の帰宅時間になってしまいました。

それでも朝7時には起きて、朝食を作り8時半に子供を保育園に連れて行きます。

子供がだんだん大きくなるにつれて、一人っ子のまま、将来は私たちの葬式を1人で出

させるのか、と考えると不憫で、

「二人目の子供を作るなら、私も体力的な限界があるから急ぎたい」

と夫に相談したら

「おれを殺す気か！」

と絶句されました。

寝不足の夫は、子供がうるさく騒ぐとすぐキレて

「あっちに行ってる！ さっさと言うとおりにしろ！」

と娘に怒鳴ります。とてもじゃないけど、彼との間にもう1人子供を産む気になれませ
ん・・・。

3) 勤続7年で過労死した若いパパ

3年前の五月のことです。保育園のゼロ歳児のクラスに子供を入園させて1ヶ月かそこ
らのうちに、同じ組のA子ちゃんのパパが亡くなりました。

お葬式の日、娘が熱を出していたので私は参列できず、夫がお焼香に伺いました。
生後8ヶ月か9ヶ月くらいだったA子ちゃんが、喪服姿のママの背中におんぶされて、お
葬式の間中大声で泣き続けていて、見るのもつらかったそうです。

最近になって、ようやくA子ちゃんのママに当時のお話を聞くことができました。

A子ちゃんのパパは、新婚時代、まだ本社勤務の頃は、夜7時頃には帰宅していたそう
です。その後、支社に異動してからどんどん忙しくなり、一年以上、土日も全然休まずに
毎日夜遅くまで働くようになりました。

「今から思うと、あの人優しすぎたんですね。もっとどンドン他の人と仕事を分担す
ればいいのに全部自分で引き受けちゃって・・・。朝起きて、ほんとうに具合悪そうなの
で『今日は休んだら』といっても、『いや、職場に迷惑がかかるから・・・』って出ていっ
て・・・。

自宅のトイレで倒れている彼を見た瞬間、『ああ良かった！ これでやっとこの人休め
るんだ！』って思ったんですよ。このまま入院させて、やっとゆっくり休養させられる、
って・・・まさかそのまま逝っちゃってたなんて・・・」

「あとで夫の上司だった課長さんに『これって過労死とかにならないんですか』って電
話したら、2日後に という役職の、ものすごく偉い地位の人がやってきて、『奥さん、
そんな訴え起こしても何の得にもならないですよ』って説得されたんですね」

「そのとき、『ああ、こんな大きな組織を敵に回すなんて、そんなことできない』って思
って・・・。それに、主人が死ぬほど仕事に打ち込んだその努力を、否定することになっ
ちゃうんじゃないか、と思ってあきらめました・・・」

4) 子供を産むと制裁を受ける日本の企業システム

私が産休、育休で6ヶ月休職している間に、もとの職場の仕事がなくなって復職と同時

に異動になりました。また、昇格が同期の男性に比較して6年ほど遅れました。人事会議では、

「産休とった人を昇格させるなんて」

「彼女は主婦であんまり残業もしてないのに、昇格させるなんて」

という理由でストップされていたそうです。

自分で産んでみてつくづく実感しましたが、日本の企業社会では、子供を産むと罰を受けるのです。

地球上のどんな下等な生物でも、たとえ個体寿命がどんなに短くても、必ず子孫を残すために生きています。

それを考えると、子供を産み、育てることに制裁を課す企業の論理って、根本的に間違っていないでしょうか？

私は厚生省と労働省がひとつの組織となったことに、大きな期待を抱いています。

子供をいつくしんで育てるためには、ゆとりを持って働くことが不可欠ですが、厚生労働省はそのどちらも手助けできる政策が実現できる官庁のはずです。

制度を作って頂ければ、私たちはそれを活用して実のあるものにしていきます。

でも、それだけでは不十分ですね。

私たちの世代がなすべきことは、文化を変え、新しい価値観を創造することだ、と感じています。

私の娘が成人する頃には、今よりももっと仕事と家庭が自然体で両立できる世の中に送り出してやりたい。

過労死した部下の奥さんのところへ、上司が口封じに駆けつけるような、そんなことのない社会が実現できるよう、どうかお力を貸してください。